



日本GAP

No. 20

# 仙台支部報

IGAP-JAPAN SENDAI INFORMATION

編集人：安藤澄雄  
 発行人：笠原弘可  
 発行所：日本GAP仙台支部  
 〒980 仙台市東十番丁1番  
 国鉄アパート1-18  
 頒価 無料 送料 60円

## イメージは実現する！

——《後編》—— 太田節子

時計を見ると12時5分……。約10分の間、私はイメージを描いていたことになります。でもそうして抽選時間が過ぎて改めて考えると、どうしても「当たった！」という確信が持てないのです。冷静に当たったかどうかを見極めようとしても、心配性のマインドが邪魔をするのです。

### ビデオが当たった

昼食のために食堂に行く途中、私はその抽選場所のそばを通りかかりました。抽選はすでに終わっていましたが、だれかが私の名前を呼んでいるのに気付き立ち止まりました。偶然、私の良く知っている人が、抽選が行われるのを見に来ていたのです。「ビデオ、当たってたよ！」そう言われた時の感激を、今でも忘れることが出来ません。何しろ偶然なんかではなく、内在する意識のパワーを借りることにより、私が自ら引き当てたのですから……。

「クジ運がいいネ！」と言われ「私が自分で当てたのよ。絶対当たると思ってたんだ」と言うと、「どうやって当てたの？」と尋ねられました。「絶対当たると自分に言いかけ、もうすでに当たったというイメージを描いていた」と答えると、げげんそうな目つきで見られました。無理もありません。「自分で物事を、自分の思うように変えていくことなど到底出来ない。出来るはずなどない。自分がどういう人生を送ることになるかは、もうすでに決まっていて、私はその敷かれているレールの上を走って行くだけ……」そう思っている人達にとっては、私の言っていることなど信じられるはずがないのです。私はもうそれ以上何も言いませんでした。

### 意外なおマケ

ところでこの時、思いがけないおマケが付きまして。何と、私の仕事のパートナーもビデオが当たったのです。

たった20台しかないビデオ、申込者のうち610人ははずれるというのに、同じ部屋のふたりが引き当ててしまったのですから、職場でも話題となり、皆にうらやましがられました。彼女がビデオを当てたのは、偶然だったのでしょいか。それとも、私がいかに自信ありげに「当たる、当たる、絶対当たる」と言っていたために、彼女もついつられてその気になってしまい、その結果ビデオを引き当ててしまったのでしょいか。いずれにしても、とてもうれしい、忘れられない出来事となりました。

あれから5年……。その時のビデオは、今も現役でがんばっています。現在出回っている物と比較すると、機能的には全然比較にはならないほど劣っているし、また録画時間も最高で1時間半と大変短いのですが、全く買い換えようという気持ちになりません。まだまだ使えそうですし、それに何しろ私にとっては記念すべき品なものですから……。

### イメージ実現のための5カ条

この時をキッカケに、私は「イメージを描くことによって望みをかなえることは可能である」ということに絶対的な確信を持つようになりました。ひとつの成功が私に自信を与えてくれたのです。これ以外にも「イメージ法」を利用することによって、望みを現実のものとしたことがいくつもあります。その結果「イメージ法」で成功するためのコツを自分なりにつかんだような気がしますので、いくつか述べさせていただきます。

まず大事なことは何と言っても「自分自身に内在するパワーを完全に信頼する。疑いの念を起ささない」ということです。……と簡単に言ってはみたものの、私のマインドは疑り深く、その上心配性ですから、いつもなだめるのに苦労していることは確かです。

そして次に、家族の者などに「私は

絶対何々する」というように宣言してしまうのです。家族以外の人達に対しても高らかに宣言することが出来るようになればこれに越したことはないのですが、私などはいろいろ後のことまで考えてしまうのでちょっと難しいですね。

それから、多少大胆ではありますが「イメージが実現する」ことを前提に次の行動に移ってしまうのです。例えば、私がビデオが当たる前に家具の配置換えをして、置く場所を確保したように……。まあこの程度でしたら、大胆とまではいきませんが……。

そして次に、これもまた非常に大切なことなのですが「あなたまかせ」にすることなく、つまり内在する意識の持つパワーだけを頼りにすることなく、イメージ実現のために自分で出来る限りの努力をするということが必要です。

そして最後に、イメージがすでに実現したという状況を何度何度も頭の中に描き、自分自身にあたかも「すでに実現している」ように思い込ませてしまうのです。

以上、私の「イメージ実現のための5カ条」について述べさせていただきました。これ以外にも良い方法はあると思います。より良き方法をご存じの方、その方法をお教えいただければ幸いです。私の経験によれば、イメージを描く目的があまりにも私的なものである場合、どうしても良心のかしゃくを感じてしまいますから、そのたぐいのイメージの実現は必然的に無理となってくるようです。

私は現在、今まで私が描いたイメージとは比較にならないほど大きなイメージを描いています。今ここで、それを言葉にする勇氣はとでもありませんので、テレパシクに感じ取ってください。(完)

※付記……………  
 大会では外にも有益な話をされたが、紙面の都合で割合せざるを得ない。上記の通り太田さんは強力な信念の持ち主であるが、普段のおだやかな表情からは察しがたい。しかも太田さんは透視能力に優れ、ゼナー・カード透視の練習はほぼ100%の正解率という、テレパシストでもある。今後の活躍が非常に楽しみな女性である。(A)

# 「生命の科学」実践記

千葉県 安藤 澄雄

第1回

## 最初から懺悔

私と妻・博子は、昨年11月から『生命の科学』を実践し、その経過・感想などを記録しようと各々ノートまで用意したにもかかわらず、ほとんど実践できませんでしたので、ここに心からの反省を込めて懺悔いたします。

なお、今年こそは第1課から絶対に実行したいと決意いたしておりますが、1月も半ばを迎え、そろそろ「今年も懺悔かな」という気がしないでもありません。しかし最後までベストを尽くしたいと思いますので、どうか見守って下さい。

## お元気ですか？

仙台支部の皆さん、全国の読者の皆さん、お元気ですか。あれから博子と私は8月の「第二次エルサレム宇宙考古学の旅」に参加し、帰国後、私は写植専門学校に通い、11月には就職できました。『Uコン』編集のお手伝いも2度経験しました。博子も引越越し荷物の整理、どんどん大きくなる汐南の世話などに追われ、いつの間にか半年が過ぎていたという感じです。

私の就職が決まってホッとしたころ、私たちは「忙」しいというその字の通り「心」を「亡」くして忙しさに追わ

れて半年を過ごしてしまったことに気づいたのです。そして「これでは何のために宇宙哲学の生徒となっているかわからない」と反省し、前述のように昨年11月から『生命の科学』を本腰を入れて研究・実践することを決意しました。

もっともご存知の通りのナマケモノなので、年が明けても私たちの「『生命の科学』ノート」は、つきたてのもののようにほとんどまっ白です。しかし最近はずすがに怠けることにもあきて、1週間過ぎたものに生えたカビぐらいにはなってきました。できれば、ひな祭りになっても飾りつけていた鏡もちのカビほどに、このノートいっばいに実践記を書き込みたいものだと思います。

## 講義テープの活用

ところで『生命の科学』実践以外に、もうひとつ今年から始めたことがあります。18号の編集後記にもチラリと書きましたが、東京本部月例会での久保田先生の解説講義録音テープを聞くのです。以前は気の向いたときにしか聞きませんでした。今年からは、毎朝聞くことにしました。

どんなに忙しくても、目覚めたらテープレコーダーのスイッチを入れて、顔を洗いながら、食事をしながら、歯を磨きながら、トイレに……までは聞こえてきませんが、とにかく家を出るまで聞いています。出かける仕度をし

ながらなので、先生には大変失礼だとは思いますが、毎日活用しているということでご勘弁いただきます。

こうすれば、時間ばかり気にして自分の心の状態をおろそかにしてしまいがちなサラリーマンの朝も、少しは宇宙的にスタートするでしょう。

## 自分を励ませ

とは言っても私はまだまだ未熟ですから、時にはスムーズに耳に入らない日もあります。だれにでもそんな時があると思います。けれど、それでも聞きます。そうすることによって、「きょうの自分はあまり調子よくないな」と気づくことができますし、さらに発展して「よし、元気を出して行こう！」と自分を励ますこともできます。いわば毎朝の心の健康診断でもあるわけですね。

こうして私たちは久保田先生の講義テープで勢いをつけて、自分自身を励ましながら一日を始めています。結局、自分自身を励まし、行動させるのは、自分なのだと思うのです。

何はともあれ、私たちはまがりなりにも『生命の科学』を実践し始めました。その成果については次回から順に報告いたします。

皆様のご健闘をお祈りします。

※月例研究会・会場変更のお知らせ※  
2月の月例会(24日)のみ、下記の通り会場を変更いたします。ご注意ください。

◎会場/仙台市戦災復興記念館

仙台市大町2-12-1

☎(0222)63-6931

◎時間/13:10~16:20

◎テキスト/『テレパシー開発法』

◎会費/300円

## 編集後記

◎本号より小支部報は、印刷経費を節減し、その分をGAP活動の援助に役立てようという主旨のもとに、コピー化いたします。ご理解下さい。

◎第7号より小紙の編集を安藤が担当してきましたが、転居による連絡の疎遠等、不都合が生じてきましたので、次号より笠原代表自ら編集発行していくことになりました。全国でも初めてのワープロによる支部報となる予定です。ご期待下さい。なお、皆様のご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

◎今年の「山形・仙台合同支部大会」は10月20日(日)、山形県米沢市、置賜(おいたま)総合文化センターで開催する予定です。多数ご出席下さい。(A)

# 草原

## ——金魚のテレパシー——

笠原弘可

先日、どうにも寝つかれず、夜中に起きてコタツにあたっていると、最近飼いだめた金魚達が激しく騒いでいた。我が家には、2そうの金魚ばかりがある。一つには4匹、もう一つには1匹いる。両方の金魚が同時に激しく泳ぎ回っている。何故、二つに分けたかという、一つの水そうを独占しているまだらの金魚のせいなのだ。赤い金魚とはどうもウマが合わなくて、その上、性質が荒く、一緒にすると体当たりしたりかみついたりする。それで止むを得ず二つに分けた。

2そうは大分離れ、互いには見えない位置にある。私の所からは両方見える。急に明るくなったので驚いたのだろうと最初は思った。とにかく2そう共大騒ぎだ。少しすると、静かになった。これもほとんど同時である。しかし、しばらくすると、また騒ぎ始めた。

両方共である。私は不思議に思った。

次の日、妻と金魚の話をしていると「やっぱり、このまだらのはきかないわね(性格が荒い、の方言)」と言った。理由を聞くと、昨日、試しにまだらと赤を一緒にしたのだと言う。結果は、以前と同様、まだらが赤を追いかけ回して、またも隔離されたのである。

なるほどと思った。昨夜、2そうの金魚達が落ち着かなく、同時に騒いでいたのは、どちらかが一緒にされたのを思い出して?それが相手に通じたのではないだろうか。だとすれば金魚というのも非常に敏感な生き物である。もっとも、一番鈍感なのは地球人らしいから、それに比べれば皆敏感に違いない。

金魚にならって、風呂に潜り口をパクパクさせてみたが、まだ効果は現れていない。